

研究分野	漁場環境	部名	浅海環境部
研究課題名	漁場環境監視調査		
予算区分	国補 (県1/2)		
試験研究実施年度・研究期間	H.12 ~ H.16		
担当	今井 美代子		
協力・分担関係	なし		

〈目的〉

漁獲対象生物にとって良好な漁場環境の維持を図るため陸奥湾沿岸域における水質環境の現況を調査する。また、生物モニタリング調査（底質調査を含む）を行うことによって底泥中に棲息する生物（マクロベントス）の種類・現存量を指標とし、陸奥湾沿岸水域の漁場環境の長期的な変化を監視する。

〈試験研究方法〉

1 水質調査

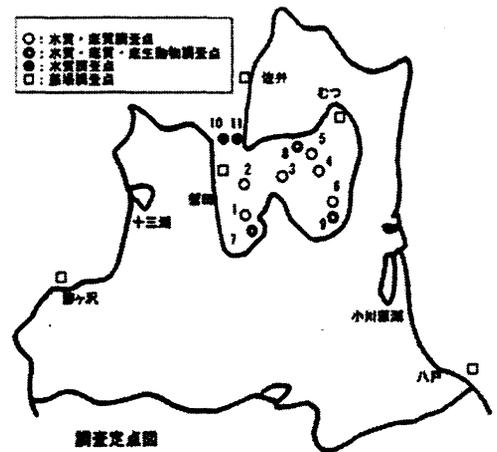
- (1) 調査海域 陸奥湾内 St.1~11 の 11 定点
- (2) 調査回数・毎月 1 回
- (3) 調査方法及び項目

気象、海象、水色、透明度  
 水温、塩分、DO、pH、栄養塩

2 生物モニタリング調査

- (1) 調査海域 陸奥湾内 St.1~9 の 9 定点  
 マクロベントスは St.7~9 の 3 定点
- (2) 調査回数 7,9 月の 2 回/年
- (3) 調査方法及び項目

気象、海象、底質(粒度組成,COD,TS,IL)、底生生物(マクロベントスの個体数,湿重量測定,種の同定,多様度指数)



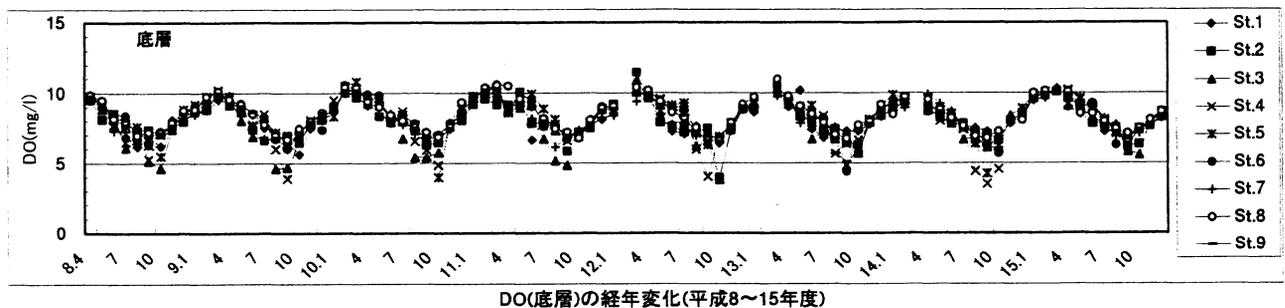
〈結果の概要・要約〉

底層の DO は年間最低値が St.3 の 10 月の 5.57mg/l でこのほか St.3 の 9 月に 5.79mg/l であったほかは、6mg/l 以上で、平成 15 年度は貧酸素状態はみられなかった。

栄養塩の推移は、これまでの変化範囲内であった。

底質調査、底生生物調査結果ともこれまでの範囲内であった。

〈主要成果の具体的なデータ〉



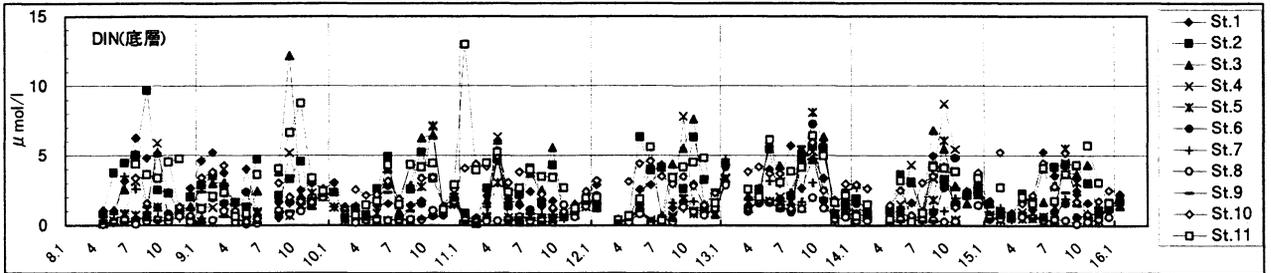
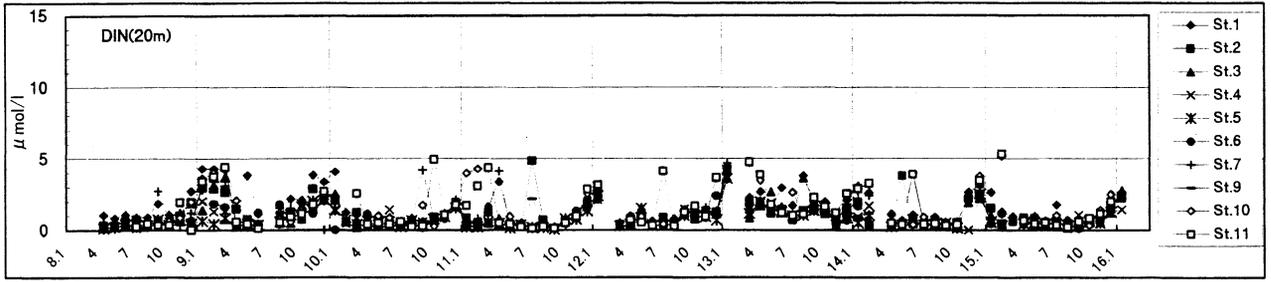


図 DINの経年変化(平成8～15年度)

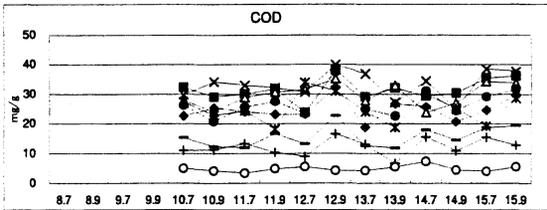


図 CODの経年変化(平成8～15年度)

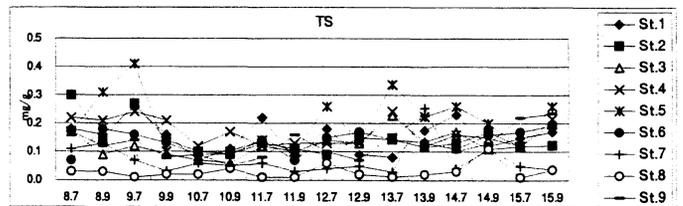
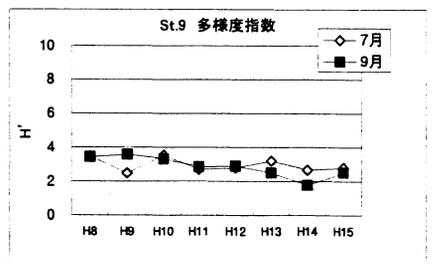
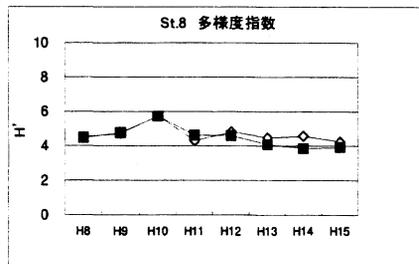
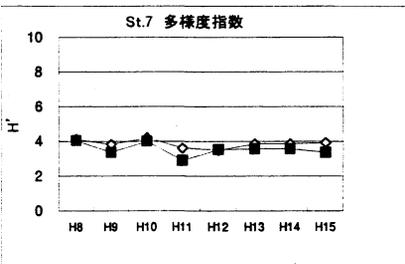


図 TSの経年変化(平成8～15年度)



多様度指数H'の経年変化

〈今後の問題点〉

栄養塩とホタテガイの餌料環境との関連性追求

〈次年度の具体的計画〉

調査の継続、底層の貧酸素状態の監視強化

栄養塩分析結果のより詳細な検討

〈結果の発表・活用状況等〉

平成15年度漁場環境総合監視調査報告書作成予定

平成16年度漁場環境保全推進事業東北ブロック会議で報告予定

平成16年度漁業公害調査指導事業検討会で報告予定

平成16年度漁業環境保全総合美化推進委員会で報告予定